

一、筑波大学哲学・思想学会会長及び評議員の選出

○平成二十五年四月二十日(土)に開催された第一回評議員会において、互選により、新会長に小野基氏が選出された。

○学会規約にもとづいて、小野会長の推薦により、次の四名が会長推薦の評議員に選出された。

久保徹、津城寛文、橋本康二、吉水千鶴子

(五十音順、敬称略)

二、評議員会の開催

平成二十五年四月二十日(土)、第一回評議員会が筑波大学人文・社会学系棟一階会議室において開催された。

○事務局代表が、千葉建氏、井川義次氏に委嘱された。

○平成二十五年度の活動方針について審議された。

○終身会員の選出について審議され、決定

通知をおこなったことが報告された。

平成二十五年十一月二十三日(土)、第二回評議員会が筑波大学総合研究棟A一階会議室において開催された。

○院生幹事が、石田隆太氏、小野隆一氏、樋口達郎氏の各氏に委嘱された。

三、第三十四回学術大会の開催

○筑波大学哲学・思想学会第三十四回大会は、平成二十五年十一月二十三日(土)筑波大学総合研究棟A一階大会議室を会場として開催され、以下の研究発表、公開講演および総会が行われた。

〔研究発表〕

- 1 手段としての論争—国学は如何にして自国の優位を宣揚したか— 樋口達郎
- 2 ケアしあう社会の構築に向けて—ケアの倫理からの出発 二川早苗
- 3 日本近代における祖先祭祀の「文明化」—穂積陳重を中心として— 間芝志保
- 4 (汝自身を知れ)というデルポイの

箴言の意味をめぐって—若干の古典的解釈 リアナ・トルファシユ

- 5 「われわれの推理」から「本質」の「事物性」(reality)へ至ること—ライプニッツ「モノドロジー」の観念論的解釈とその帰趨— 清水洋貴
- 6 カント倫理学における義務と傾向性 千葉 建

〔公開講演〕

脳科学からキリスト教思想へ
京都大学教授 芦名定道氏

〔総会〕

・活動報告 平成二十四年度の活動報告が承認された。
○会計報告 吉田真哉幹事より、別表の通り平成二十四年度会計報告(平成二十四年四月一日〜平成二十五年三月三十一日)がなされ、承認された。

四、編集委員会の開催

『哲学・思想叢書』第三二号の第一回編集委員会が、六月十二日(水)筑波大学人文・社会学系棟八階教員談話室に

において開催された。
 ○第三二号の編集方針・日程等が検討された。

○第二回編集委員会が、九月七日（水）に第一回と同じ場所で開催された。

○第三十四回学術大会研究発表者の選考が行われた。

○投稿論文が審査された。

第三回編集委員会が、十月十六日（水）に第一回とおなじ場所で開催された。

○大会プログラムについて検討された。

○投稿論文が審査された。

第四回編集委員会が、十月十二日（水）に前回と同じ場所で開催された。

○投稿論文が審査された。

五、会員異動

○新入会員 今泉早織、河合一樹、岸本崇、小坂有弘、佐藤恒、田村歩、牧野静

○終身会員

季東潤

（五十音順、敬称略）

（平成二十六年一月三十一日 吉田真哉記）

『哲学・思想論叢』
 第三十三号原稿募集

・原稿締切日
 平成二十六年九月一日（月）
 ・左記論文執筆規定を（）参照の上
 （）寄稿下さい

筑波大学哲学・思想学会平成24年度会計報告

（平成24年4月1日～平成25年3月31日）会計担当幹事 吉田真哉

収 入	支 出		
前年度繰越金	1,436,863	機関誌作成費	303,429
学会費	585,000	通信費	13,100
抜刷代金（立替分）	9,000	アルバイト代	79,000
		大会開催費	116,209
		評議員会開催費	74,400
		事務用品代	12,694
		次年度繰越金	1,432,031
計	2,030,863	計	2,030,863